

2022年度 棚田学会大会シンポジウム

棚田地域で展開される スマート農業と それがもたらす未来

2022・8・6(土) 13:30-17:00

開催方式：ZOOMによるオンライン方式

参加費：無料（事前申込みが必要です）会員以外の方も無料で参加できます

●プログラム

◇ 棚田学会賞受賞者講演（12:50-13:20）

シンポジウムに先立ち行います。ぜひこちらにもご参加ください。

1. シンポジウム開会挨拶／山路 永司（棚田学会会長 東京大学名誉教授）
2. 本シンポジウムの趣旨説明＊／岡島 賢治（棚田学会研究委員 三重大学 大学院生物資源学研究科） ＊裏面を参照して下さい
3. 基調講演「棚田を含む中山間農業と農村地域を未来に継承するためのスマート農業の展開」
／遠藤 和子（（国）農研機構 農村工学研究部門 資源利用研究領域 研究領域長）
4. 事例報告
 - ①棚田地域のスマート農業の展開（山都町中山間地域スマート農業実証コンソーシアム）
／松添 直隆（熊本県立大学 環境共生学部教授）
 - ②棚田の農業用水路をフル活用するナノ水力発電の実用化に向けて
／左村 公（株式会社 協和コンサルタンツ）
 - ③スマート社会実現への推進事業を軸とした未来へ向けた住民意識の醸成
／古根川 竜夫（三重県御浜町役場）
5. 総合討論（テーマ：棚田地域で展開されるスマート農業とそれがもたらす未来）
司会：岡島 賢治（棚田学会研究委員） パネリスト：基調講演者・事例報告者
6. 総括および閉会挨拶／上野 裕治（棚田学会理事・研究委員長）

〈主催〉
棚田学会
〈後援〉
農林水産省
一般社団法人
地域環境資源センター
〈協賛〉
公益財団法人
SOMPO
環境財団

■シンポジウム開催趣旨

過疎、少子高齢化、後継者問題など近年、棚田地域を取り巻く状況は依然厳しい状態が続いている。しかし、都市との地域格差、過疎によるコミュニケーション不足、少子高齢化による労働力不足といった課題を抱える棚田地域は、AIやロボット、大容量通信を活用し、人的リソースの集約を図るスマート社会の効果・効率を最大限に享受できる地域であるともいえる。このため、農林水産省をはじめ多くの省庁、自治体も棚田地域、中山間地域のスマート社会実現を加速させる事業の展開を見せ始めている。このようなさまざまな取り組みが進み始めたことから得られたスマート社会実現にむけた可能性とともに、棚田地域でのスマート化の展開のための課題も浮き彫りになってきている。

本シンポジウムでは、棚田地域で展開されるスマート農業とその課題を、事例報告をもとに共有するとともに、スマート農業の展開が目的ではなく、棚田地域で生まれ、育ち、生活していくためのサポートであり、スマート農業によりもたらされる未来の棚田地域のあり方を考える機会としたい。

■発表者プロフィール



遠藤 和子

(えんどう・かずこ)

農研機構 農村工学研究部門

福島県生まれ。筑波大学環境科学研究科中退後、農林水産省に入省し、北陸農業試験場において中山間地域の農地保全計画に関する研究に取り組む。その後、多面的機能支払交付金活動による地域資源の保全や農村協働力、農村振興に関する研究に従事。現在は、農研機構農村工学研究部門において、スマート農業実証プロジェクトや地産地消型のエネルギーシステムによる農村の活性化などの課題に取り組んでいる。



松添 直隆

(まつそえ・なおたか)

熊本県立大学 環境共生学部

1960年生まれ、長崎県出身。九州大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士（農学）。鹿児島大学農学部生物生産学科助手（1991年3月～1998年3月）、1999年4月熊本県立大学に移動、2006年4月から現職。熊本の歴史、自然、安全・安心な農産物を取り入れた、食・農・環境教育を進めています。スマート農業実証プロジェクト（農水省）「スマート農業を導入した国際水準の有機農業の実践による中山間地域と棚田の活性化モデルの構築」の実証代表者（2020～2021年度）。



左村 公

(さむら・いさお)

株式会社 協和コンサルタンツ
新規事業推進室

1979年、徳島県に生まれ、岡山県、広島県、山口県を中心に転々と暮らす。東京農業大学大学院修了。博士（農業工学）。2007年に株式会社協和コンサルタンツに入社し、河川部に配属。河川堤防、護岸、河川構造物の設計、ストックマネジメント等に従事。その後、新規事業推進室へ異動し、小水力発電事業の調査、設計、水力発電装置（相反転方式小水力発電）の開発に従事。プライベートでは農福連携、パラアート支援等の障がい者支援団体である一般社団法人パラスポーツ推進機構の企画委員としても活動を行っている。



古根川 竜夫

(こねがわ・たつお)

御浜町役場 建設課

1979年生まれ、三重県出身。福井大学大学院環境設計工学専攻修了。博士（工学）。2010年から町役場職員とし勤務し、公共インフラ全般の維持管理業務を担う。2019年より国営御浜団地の再整備計画を進める傍ら、隣接する中山間集落が抱える課題について関心をもつ。2020年に「御浜土地改良区スマート農業コンソーシアム」「神木みらいのまちづくり推進委員会」を設立し、整備事業を活用したみらいの中山間集落のあり方を検討している。

〈申し込み〉

参加希望の方は下記URL、右のQRコード、もしくはFAX、郵便にて必要事項を記入し返信して下さい。

<https://forms.gle/VWBkaQT3ApPcC2wZ6>

お問い合わせ：tanada.ac@gmail.com

申し込み締切：7月30日（土）

参加申し込みの個人情報はシンポジウムの連絡以外には使用いたしません。



FAX（042-385-1180）、および郵便（〒184-0015 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101 ふるきや内棚田学会）で申込みの時は、以下の項目をご連絡下さい。

氏名 メールアドレス 住所 電話番号
会員・非会員 所属